

勅授

二

立案	昭和	年	月	日
決裁	昭和	年	月	日

三二〇
三二七
二八

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

遞信院業務局長立花章介十一名叙任件

昭和三十年七月廿六日裁可
八月一日達
日官報報告済
臺帳記入

裏面白紙



遞信院業務局長立花章外十一名叙位ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年七月二十六日

内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎



内閣

入閣第二〇八號

案起

昭和二十年七月

日

裁可昭和二十年七月廿六日

施行

昭和二十年七月廿六日

施行

昭和

年

月

日

内閣總理大臣 璽

内閣書記官長 璽

内閣書記官 璽

遞信院業務局長 立花 章 外十一名 叙位
件

裏面白紙

内閣人閣位第二〇八號

敍從四位正
五年七月十五日
日經過滿
三年以上
陞敍高等官一等
遷信院業務局長
正五位立
花
章

選信省

一覽

敘從三位

昭和三十九年九月

正四位

陸軍少将

陸軍少将 正四位

田中

稔

右文武官叙位進階内則第

三條二依り

謹テ奏ス

昭和廿年七月廿日

陸軍大臣 阿南惟幾



陸軍

めくれず

裏面白紙

内閣人陸軍(一五七)

叙正四位	昭和大正三月卅一日	陸軍司政長官	從四位	歌田	千勝
從四位	昭和大正三月卅一日	陸軍司政長官	從四位	藤井	正雄
同	昭和大正三月卅一日	陸軍司政長官	從四位		
同	昭和大正三月卅一日	陸軍司政長官	從四位		

右文武官叙位進階内則第三條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十年七月二十日

陸軍大臣阿南惟幾



陸軍

司法 一三一

叙從四位

正昭和十五年七月十五日

位

五經過

年昭和十年六月十五日

判事正五位

石橋

鞠次郎

同

同

同

白石

要

同

同

同

鈴木

喜市

右文武官叙位進階内則第三條ニ依リ謹テ奏ス

昭和二十年七月十八日

司法大臣

松阪廣政



(國定規格B5(182×257))

裏面白紙

朝鮮總督府 第七八八

敍從三位 正四 位年以上陞敍高等官一等 昭和十五年七月一日經過五昭和十三年三月十一日 朝鮮總督府判事 正四位官 本 元

右文武官敍位進階内則第二條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十年七月二十二日

朝鮮總督 阿部 信



朝鮮總督府

京師(谷岡)

附人内位第七八五

敍從三位 昭和十五年七月日經過五昭和十七年九月三十日 朝鮮總督府判事正四位 正 四 位年以上陞敍高等官一等 本 正 平

右文武官敍位進階内則第三條ニ依リ

謹 テ 奏 ス

昭和二十年七月二十二日

朝鮮總督 阿 部 信



朝鮮總督府

京紙(谷田紙)

叙三位

昭和三十七年七月一日 經過大正十五年八月五日 從三位 三 位 九年 陸軍高等官一等

臺北帝國大學總長從三位安藤一雄

右文武官叙位進階内則第二條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和二十年七月十一日

臺灣總督安藤利吉



内務省

めくれず

内閣人閣位第ニ〇八號

遊秘行第五七三號

昭和二十年七月十六日

遊秘行總裁 堀原 時三

内閣總理大臣 鈴木 貫太郎



立花 章 進位ノ件

別紙ノ添發令箱成度及上申候

遊 信

151

内閣人閣位第ニ〇八號

昭和二十年七月十六日

付受

裏面白紙

至
三
七

内務大
臣官房
大 甲
第 二
八 三
七 號

別紙 水 池 亮 外 壹 名 紋 位 ノ 件

上奏書進達ス

昭和二十年七月二十二日

内務大臣 安倍源



内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎 殿

内務省
152
20.7.22

裏面白紙

陸軍省

陸位第一〇六二號

敘位ノ件進達

昭和二十年七月廿日

陸軍大臣 阿南惟幾

内閣總理大臣 另爵 鈴木貫太郎 殿

陸軍司政長官 田中 稔 叙位ノ件

右 進 達 矣

録

153

2017.22 付受

陸軍

裏面白紙

めくれず

裏面白紙

陸位第一〇七〇號

敘位ノ件 進達

昭和二十年 七月二十日

陸軍大臣 阿南 惟幾

内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎 殿

陸軍司政長官 歌田千勝外一名叙位ノ件

右 進 達 ス

報 登 載

陸 軍

207.22
付文

裏面白紙

司法省人恩第六九號上奏
右執奏有之度候也

壹件

昭和二十年 七月十八日

司法大臣 松阪廣政



内閣總理大臣男爵鈴木貫太郎殿

判事正五位石橋勲次郎外三名進位ノ件



155

3

裏面白紙

内務大臣 官 第 六 八 二 六 號

別紙 官 本 元 紋 位 ノ 件

上奏書進達ス

昭和二十年七月二十二日

内務大臣 安倍源基



内閣總理大臣 男爵 鈴木貫太郎 殿

内務省 156

2017.22 付受

内務大臣 官房大 甲第二八二三號

別紙 矢 本 正 平 紋 位 ノ 件

上奏書進達ス

昭和二十年七月二十二日

内務大臣 安倍源基



内閣總理大臣 男爵 鈴木貫太郎 殿

内務 157

207.22 付文

裏面白紙

内務大臣 官房 甲 第 二、五、九、六 號

別紙 安藤 一雄 紋位ノ件

上奏書進達ス

昭和二十年七月十一日

内務大臣 安倍源基



内閣總理大臣 男爵 鈴木貫太郎 殿

内務省

158

207.12 付文

裏面白紙



丙 發第八三號

立花章外百六十九名
石の省の位記と送りますから本人に交付せられたハ

昭和二十二年四月七日

宗務寮總裁松平康昌

逓信大臣 一松度吉殿

昭和二十年八月一日付定期叙位

宮内省

裏面白紙

二號算紙

裏面白紙

丙發第八一八號

一陸軍司政長官從三位 田中 稔 外百五名
右の者の位記を送り申すから本人に交付せられたい

昭和二十二年 四月七日

宗秩寮總裁侯爵松平康昌

第一復員局長 上月良夫 殿

昭和二十年八月一日付定期倉位



官内省

二號野紙



丙發第八二九號

一、判事 従四位 石橋 鞆次郎 外二十六名
右の者の位記を送りませぬり本人に交付せらるるに

昭和二十年四月七日

宗秩寮總裁侯爵松平康昌

司法大臣 木村 篤太郎殿

昭和二十年八月一日付定期叙位

二號發紙

裏面白紙

官内省

裏面白紙

丙發第八一六號

一内務省警保局長從四位水池 亮外四百四十一名
右の者の位記を送りますから本人に交付せらるるに
昭和二十二年四月七日

宗秩寮總裁候爵松平康昌

内務大臣 植原悦二郎殿

昭和二十二年八月一日付定期叙位



官内省